

人材育成における産学“縫接”： 企業人事部が関わったカリ キュラム開発

広島大学高等教育研究開発センター
2021RIHE第49回研究員集会（第2部）
2021年11月25日

構成

4つの産学共創PBL型授業の概要

1 授業の目的

2 授業の内容 . . . 大学教員から見た授業の特徴

3 学生の評価

4 反省点

5 今後の展望

1 授業の目的 (1)

背景

- 個人的学問的関心
 - 人材育成における学校と社会の断絶
 - 人の成長は続くので、学校と社会を縫接する必要がある。
 - これまでの文科省と教育学が学校で、厚生労働省と経済学やHRMが社会という分断をなくす。

1 授業の目的 (2)

目的

- 企業の人材育成ノウハウを大学教育に生かす。
 - 新人研修、若手の社会人基礎力育成研修、インターンシップ
- 大学は学生の卒業後のライフサイクルやウェルビーイングにどれだけ貢献できるか。

目標

現在の入社3年目4月の社員が持つ社会人基礎力を持たせて卒業学生に大学を卒業するときの自分のイメージを持たせ。

4つの授業

1. オカムラ

アドバンスドセミナー「オン・キャンパス・インターンシップ：未来の「はたらく」を考える」

春～夏学期、月1、2単位、2,3,4,5,6年

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do? flowId=SYW4201600-flow&nendo=2021&j_s_cd=13&j_cd=137785&langkbn=j

2. オムロン

アドバンスドセミナー「オン・キャンパス・インターンシップ：SDGs事業と自らのキャリア形成」

秋学期、隔週、2単位、1,2,3,4,5,6年

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do? flowId=SYW4201600-flow&nendo=2021&j_s_cd=13&j_cd=137784&langkbn=j

3. 損保ジャパン

アドバンスドセミナー「オン・キャンパス・インターンシップ：社会に提供できる安心・安全・健康のサービスを創造しよう」

秋学期、隔週、1単位、1,2,3,4,5,6年

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do? flowId=SYW4201600-flow&nendo=2021&j_s_cd=13&j_cd=137783&langkbn=j

4. パナソニック

特別講義（最先端技術を用いた未来の街づくり）

秋学期、隔週、2単位、1,2,3,4,5,6年

https://koan.osaka-u.ac.jp/campusweb/campusquare.do? flowId=SYW4201600-flow&nendo=2021&j_s_cd=3B01&j_cd=3B1525&langkbn=j

2 授業の内容

授業規模

- 受講生15-25名程度（**全学部・全研究科**）
- 4-6名程度からなるグループでのPjBL
- テーマ
 - 各企業が持つプロジェクト
 - 社会課題と企業経営のあり方 e.g. SDGsと企業経営、働き方改革
- 講師＋ファシリテーター
 - 複数講師（2～4名）＋大学教員2、3名
 - **各グループに企業からファシリテーター**がつく場合もある。



2 授業の内容

コースの構成

1. オリエンテーション／アイスブレイク
アイスブレイクの技術
NASAゲーム
カスタマージャーニー
「社会人カード」
etc.
2. グループ・ワーク（前半） or （個人ワーク）
world cafe
3. 中間発表
4. グループ・ワーク（後半）
5. 最終発表
学外（会社、フィールドの場所）
企業や社会の方々からのコメント



3 学生の評価 (1)

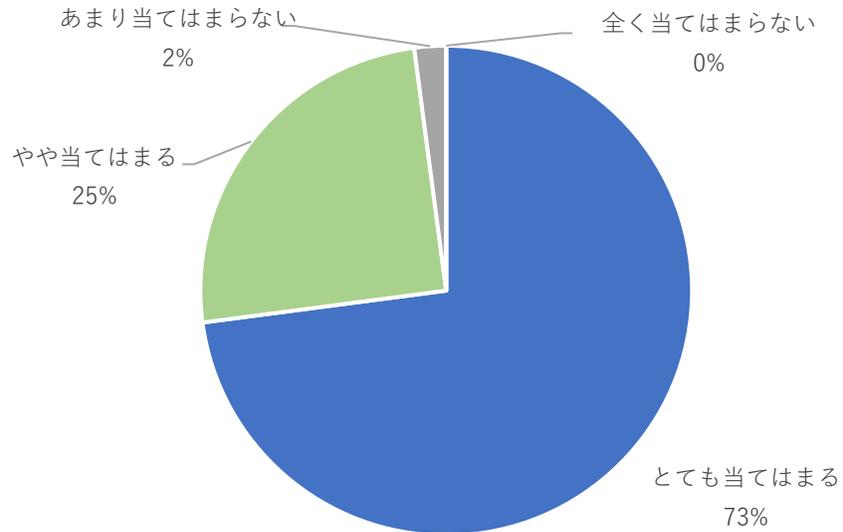
学生は授業構成員の **ダイバーシティ** を評価している。

- **今まで受けた授業の中で一番楽しかったです。** 正直、授業はかったるいものが多いですが、これは本当に興味がわく内容でした。 **人生の先輩方**のお話、 **同年代の考えを知れて**良かったです。
- **社会人の方と繋がり**ができたという点が最も良かったです。個人的な活動にその後も協力していただいております。
- 個人ワークもよかったです、グループワークが特に面白かった。 **他学部**の**他学年の方とも話**ができ、 **興味深いこと**がたくさんありました。また、 **社会人の方と話しできる機会**もでき、非常に刺激的でした。

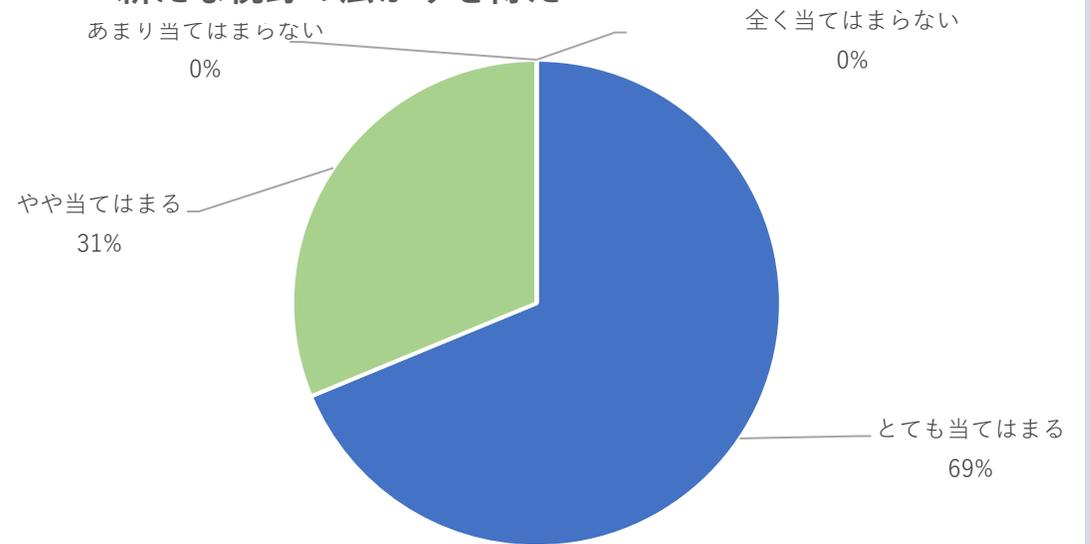
3 学生の評価 (2)

学生の評価は非常に高い。

総合的に満足をしている



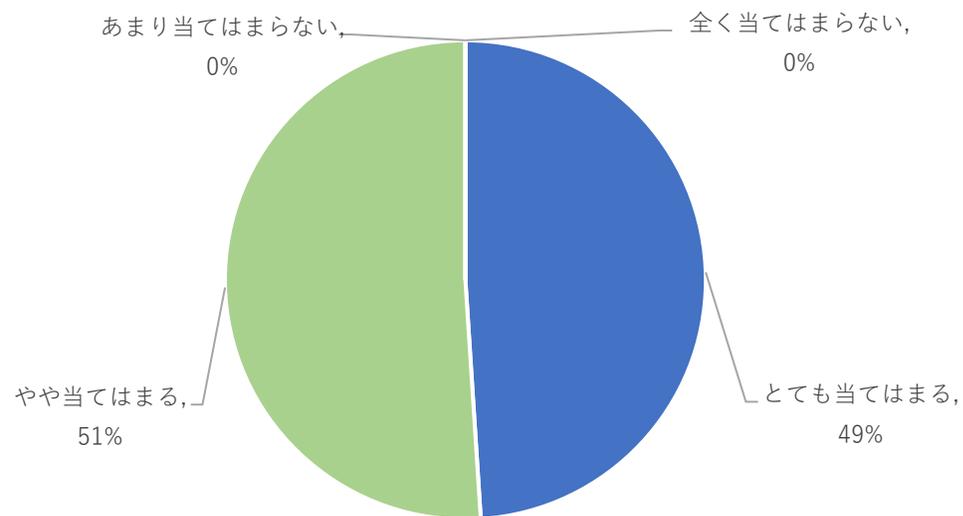
主専攻とは異なるものの見方や考え方、
新たな視野の広がりを得た



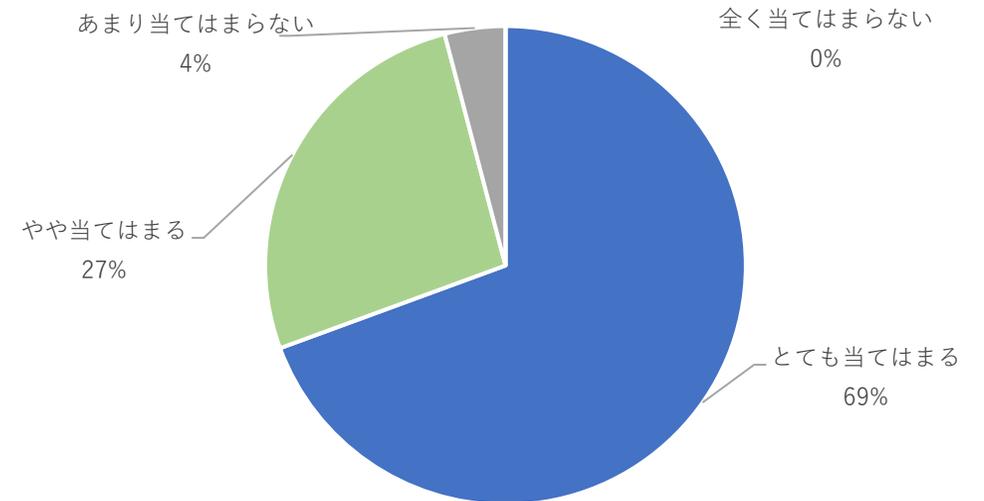
3 学生の評価

学生の評価は非常に高い。

異なるものの見方や考え方、新たな視野の広がりによって、今後、何かに新しく取組みを考えている



主専攻の授業と比べて、自分の意見を言うなど、積極的に参加した



4 反省点 (1)

1. 大学の役割とは

- 教員の関わり方の改善

- 基本的スキルは大学教員が教える。
 - スライドの作り方や発表の仕方
 - アカデミックライティング、ロジカルシンキング
- 大学内にある専門知識をどう付加するか。
学内教員のインタビュー、ゲストスピーカー

- 評価における教員と講師の間のすり合わせ

- 企業の評価ポイント、評価軸・・・学生は企業が求める人材像を知りたがっている。

4 反省点 (2)

2. 企業にとってのメリットの確保

問題

- 担当者の負担、時間とエフォートが大きい。
- 学生への授業の広報が難しい。

対策

- 企業の若手人材育成の機会と捉える。企業人と学生のミックスグループ
- 経験した学生をファシリテーターとする。

5 今後の展望

価値のある授業として広がる可能性はあるが、解決すべき課題もある。

1. 共創型PBL授業の最適な割合とは
 - 5%程度、130単位の中で3科目ぐらい。
2. 企業のスピードと大学のリズムの調整
 - 仲介者の必要性
 - 共創教育の窓口一元化、積極的に開発展開する組織
 - 開講時期、場所の自由度
 - 硬直的な大学のカリキュラム作成のサイクル・・・企業は数ヶ月サイクル